

**製品名: GIT1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab11449**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	95kDa

**抗原情報**

遺伝子名	GIT1
別名	GIT1; ARF GTPase-activating protein GIT1; ARF GAP GIT1; Cool-associated and tyrosine-phosphorylated protein 1; CAT-1; CAT1; G protein-coupled receptor kinase-interactor 1; GRK-interacting protein 1
遺伝子 ID	28964.0
SwissProt ID	Q9Y2X7
免疫原	抗血清はヒト GIT1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 561-610

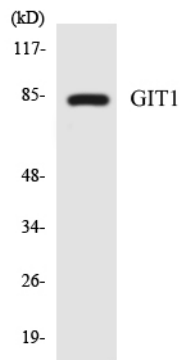
**背景**

ドメイン: パキシリン結合ドメインは全長タンパク質ではマスクされており、ARHGEF6によって制御されます。機能: ADP リボシル化因子ファミリーの GTPase 活性化タンパク質。分子を集合させて小胞輸送、接着、細胞骨格形成を制御するシグナル伝達モジュールを形成するための足場として機能する可能性があります。PAK1 を接着部およびラメリポディアの先端に標的とすることで、細胞移動速度、突起形成速度、および突起サイズを増加させます。細胞質複合体内の不活性な非チロシンリン酸化パキシリンを隔離します。PTM: 増殖中の線維芽細胞において、PTK2 および SRC によってチロシン残基がリン酸化されます。チロシンリン酸化は、フィブロネクチン上での細胞伸展後に増加し、有糸分裂で停止した細胞では減少し、続く G1 期では増加する。類似性: 1 つの Arf-GAP ドメインを含む。類似性: 3 つの ANK リピートを含む。細胞内局在: 接着斑、細胞質複合体、膜突起を含む少なくとも 3 つの異なる細胞内区画間を循環する。細胞遊走中、細胞が剥離する場合は接着斑から細胞質複合体へと先端に向かって移動するが、細胞が接着する場合は、ピンキュリンを含む接着斑に存在する。接着斑へのリクルートメントは、活性チロシンリン酸化パキシリンによって媒介されると考えられる。サブユニット: G タンパク質共役受容体キナーゼ (ADRBK1/GRK2、PPFIA1、PPFIA4) と相互作用する。ARHGEF6/alpha-PIX、ARHGEF7/beta-PIX、PXN/パキシリン、および PTK2/FAK と相互作用します (類似性による)。PXN、ARHGEF6、および PAK1 も含む細胞質複合体の構成要素です。TGFB1I1 と相互作用します。ドメイン: パキシリン結合ドメインは全長タンパク質ではマスクされており、ARHGEF6によって制御されます。機能: ADP リボシル化因子ファミリーの GTPase 活性化タンパク質。小胞輸送、接着、および細胞骨格組織化を制御するシグナル伝達モジュールを形成するために分子をまとめる足場として機能する可能性があります。おそらく PAK1 を接着部および葉状仮足の先端に標的とすることで、細胞移動の速度、および突起の形成サイズと速度が増加します。細胞質複合体内の不活性な非チロシンリン酸化パキシリンを隔離する。PTM: 増殖中の線維芽細胞において、PTK2 および SRC によってチロシン残基がリン酸化される。チロシンリン酸化は、フィブロネクチン上での細胞伸展後に増加し、有糸分裂停止細胞では減少し、続く G1 期では増加する。類似性: 1 つの Arf-GAP ドメインを含む。類似性: 3 つの ANK リピートを含む。細胞内局在: 接着斑、細胞質複合体、膜突起を含む少なくとも 3 つの異なる細胞内区画間を循環する。細胞遊走中、細胞が剥離する場合は接着斑から細胞質複合体へと先端に向かって移動するが、細胞が接着する場合は、ピンキュリンを含む接着斑に存在する。接着部へのリクルートは、活性チロシンリン酸化パキシリンを介していると考えられる。サブユニット: G タンパク質共役受容体キナーゼ (ADRBK1/GRK2、PPFIA1、PPFIA4) と相互作用する。ARHGEF6/alpha-PIX、ARHGEF7/beta-PIX、PXN/パキシリン、PTK2/FAK と相互作用する (相同性による)。PXN、ARHGEF6、PAK1 を含む細胞質複合体の構成要素である。TGFB1I1 と相互作用する。

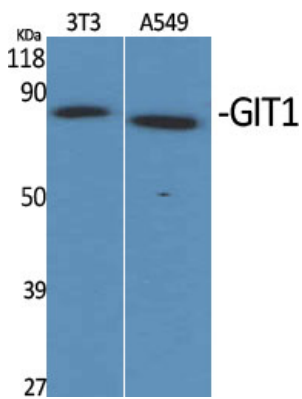
## 研究分野

エンドサイトーシス;アクチンと細胞骨格を調節する;ヘリコバクター ピロリ感染における上皮細胞シグナル伝達;

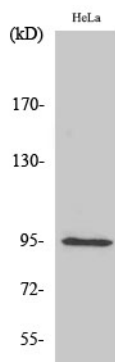
## 画像データ



GIT1 抗体を使用した 293 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



GIT1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



GIT1 ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析